

農林水産大臣賞（近畿ブロック最優良事例）

七不思議伝説の里・志賀郷地域振興協議会（京都府綾部市）



志賀郷の風景



イベント活動（ビアガーデン）の様子

（概 要）

（１）むらづくりの動機・背景

地元のある米農家の「若者がいない地域に活力なし」という信念の元、平成17年に「複式学級の阻止」を旗印に、地域住民と移住者の有志12名が「コ宝ネット」を立ち上げ、空き家情報の発信と移住相談に取り組んだ。その結果、平成22年までの5年間で約15世帯が移住し、小学校の複式化を免れるに至った。また、イベント運営を通じて住民の交流を図るなどの取組が、「若者が集う元気な地域」としてマスコミにも取り上げられ、住民たちの地域おこしにチャレンジする自信に繋がった。

活気を取り戻しつつある地域の動きを加速させるため、平成20年に今に伝わる「志賀の七不思議伝説」をキーワードに地域資源を活用した事業を展開する組織「七不思議伝説の里・志賀郷地域振興協議会」を自治会を始めとする各地域団体で組織された。

さらに、平成23年度から過疎高齢化の進む農山漁村の里力再生に取り組む京都府の「共に育む命の里事業」を活用し、地域の農産物の活用や女性の活躍の場として、地域内に遊休していた漬物工場を再生し「志賀郷特産品加工センター」を発足して、組織的な衛生・安全管理の下、農産物の加工・販売が行える体制を確立した。

（２）むらづくりの内容

志賀郷の取り組みは、「移住・定住対策」と「6次産業化」の2つの取り組みが相乗効果を発揮して地域活性化に繋がっている事例である。有志による「複式学級化の阻止」という明確なスローガンのもと、「小学生以下を持つ家族」に、対象を絞り込み、移住・定住につなげており、移住者の定着率は8割を超えている。また、移住者の農業への関わり方は農家民宿や半農半X的なものから本格的な専業農家など多様な経営体で構成されており、その栽培面積の合計が地域全体の1割に及ぶことは特筆に値する。「農」というキーワードで横の繋がりや外部への発信活動もみられ、志賀郷に来れば「農のある暮らしが実現できる」というメッセージは、国内で増加傾向にある農業を志向する若者に対して新たな選択肢を提供するものである。